

様式第6号（第6条関係）

(宛先) 安曇野市議会議長 浜 昭次



平成 27 年 11 月 13 日

会派名  
代表者氏名 林 孝彦  
経理責任者氏名 林 孝彦



### 平成 27 年度政務活動費収支報告書

安曇野市議会政務活動費の交付に関する条例第9条の規定により、平成 27 年度政務活動費収支報告書を提出します。

#### 1 収支決算

収入の部

(単位：円)

項目	決算額	備考
政務活動費	52,500 円	7,500 円 × 7箇月(4～10月)
合計	52,500 円	

支出の部

項目	決算額	備考
調査研究費	19,700 円	調査研究(平成 27 年 10 月 11 日、京都市内) 鉄道代 19,700 円 (JR 代 19,280 円 + 京都市営地下鉄代 420 円) (内訳) JR 代 19,280 円 (5,940 円 + 1,080 円 + 2,480 円 = 9,500 円 (片道) × 2 = 19,000 円) + (140 円 × 2 = 280 円)、京都市営地下鉄代 420 円 (210 円 × 2 = 420 円)
資料作成費	7,364 円	資料印刷費 7,872 円 → 7,364 円 (充当分) (内訳) インクカートリッジ代 7,872 円 (19,680 円 × 0.4

		(政務活動分として))
資料購入費	25,436 円	図書 書籍代 25,436 円 (内訳) 1,788 円 (600 円 + 1,188 円) + 19,612 円 (1,814 円 + 2,160 円 + 1,296 円 + 2,376 円 + 1,512 円 + 1,296 円 + 2,376 円 + 1,728 円 + 1,404 円 + 1,058 円 + 1,620 円 + 972 円) + 4,036 円 (1,512 円 + 850 円 + 918 円 + 756 円)
合 計	52,500 円	

2 収入支出差引残高 0 円

#### 備考

- 1 備考欄には、主たる収入支出の内訳を記載すること。
- 2 政務活動実施状況（別紙）を添付すること。

## 別紙

## 政務活動実施状況

活動名	京都市内における観光振興の取り組みについての調査研究	
活動区分	①調査研究	
活動の目的	京都市内における観光振興の取り組みについて学び、安曇野市の観光振興の参考とする。	
活動の概要	日時	平成 27 年 10 月 11 日 (日) 午後 1 時 30 分から 午後 5 時 30 分まで
	研修先・主催者等	公益社団法人 京都市観光協会 京都総合観光案内所(京都市下京区) 岡田 進さん 京の食文化ミュージアム・あじわい館(京都市下京区) 事務局 山下美保さん 京都 錦市場(京都市中京区)
報告内容・実施したこと。	<p>京都市と京都府が共同で設置する京都総合観光案内所（愛称「京(きょう)なび」）（京都市下京区）は、京都駅ビル2階の南北自由通路沿いにある。私は資料をいただき、岡田 進さんの説明を受けた。ここでは京都市を含む府内全域の観光案内や宿泊の紹介、催しチケットの販売など、様々な観光情報の提供を行っている。開所時間は午前 8 時 30 分～午後 7 時(年中無休)である。平成 24 年 10 月には、日本政府観光局(JNTO)の外国人観光案内所認定制度において、西日本で唯一(当時)最高ランクのカテゴリー 3 に認定された。英語はもちろん、中国語、韓国・朝鮮語でも案内している。Wi-Fi も完備している。海外からの観光客の利便性向上にこれからも努めていくとのことである。当日も様々な外国人観光客が多く、日本人観光客は肩身が狭く感じるほどであった。</p> <p>京都府、京都市の共同で運営する府市協調施設である京の食文化ミュージアム・あじわい館(京都市下京区)は、JR嵯峨野線丹波口駅より徒歩3分、京都リサーチパーク前バス停より徒歩2分の京都青果センタービル3階にある。伝統的かつ創造的な京の食文化の素晴らしさを実感してもらうとともに、市場及び地域の活性化を図るため、食材の宝庫である京都市中央市場に開設している。京の食文化について学ぶミュージアムで、「見る」</p>	

	<p>「つくる」「あじわう」をテーマに、京都の食文化に関する展示、試飲、毎月開催している料理教室（有料）などが体験できる。展示室の見学は予約不要、入場無料である。Wi-Fiも完備している。団体には様々な体験コースを用意している。そして、安全・安心な生鮮食料品を安定供給している市場の大切さや食育の重要性を発信するとともに、京都産農水産物の需要拡大を図る。私は事務局 山下美保さんの説明を受け、だし試飲をした。本物の「かつお」「昆布」などで取る（引く）”だし”は、風味も味もよく塩味や醤油を加えなくてもそれだけでおいしい。</p> <p>京都 錦市場（京都市中京区）は、地下鉄烏丸線四条駅下車徒歩3分で、390メートルにもなる商店街である。錦小路通りは京都の目抜き通り四条通の一本北に位置し、京都錦市場商店街振興組合に属する店は126店舗、道幅は3.3メートルから5メートル、東の端には新京極がある。魚・京野菜などの生鮮食材や、乾物・漬物・おばんざい（京都言葉で日常の惣菜）などの加工食品を商う老舗・専門店が集まる市場である。京都独特の食材は、ほぼここで揃う。2006年、錦市場は経済産業省が選定する全国の「がんばる商店街77選」に選ばれた。</p> <p>これらの視察を安曇野市の観光振興の参考とし、安曇野市政の発展に貢献したい。</p>
まとめ（感想・市政に活かせること等）	京都市内の先進的な観光振興の取り組みを参考にし、安曇野市の観光振興の取り組みを向上させたい。そして、安曇野市政の発展に貢献したい。

備考 政務活動等実施状況は活動ごとに作成し、領収書その他支出を証する書類を最後にまとめて添付すること。

別紙

政務活動実施状況

活動名	政務活動に関する資料作成	
活動区分	③資料作成	
活動の目的	政務活動のために資料作成をする。	
活動の概要	報告内容・ 実施したこと。	政務活動のために資料作成をした。
	まとめ（感想・市政に活かせること等）	政務活動のために作成した資料を活用し、安曇野市政に役立てる。

備考 政務活動等実施状況は活動ごとに作成し、領収書その他支出を証する書類を最後にまとめて添付すること。

## 別紙

## 政務活動実施状況

活動名	政務活動に関する資料購入	
活動区分	④資料購入	
活動の目的	政務活動のために資料購入をする。	
活動の概要	<p>報告内容・ 実施したこと。</p> <p>政務活動のために資料購入をした。</p> <p>図書 書籍 18 冊</p> <p>『ぼくはアスペルガー症候群』 権田真吾 彩図社 アスペルガー症候群の本人が語る体験談</p> <p>『アスペルガー症候群との上手なつきあい方入門』 西脇俊二 宝島社 コミュニケーションが苦手で孤立しがちには理由がある!!</p> <p>『日本の未来を考えよう』 出口治明 クロスメディア・パブリッシング “知ることから“明るい未来”がはじまる</p> <p>『はじめて学ぶ地方自治法&lt;第1次改訂版&gt;』 吉田 勉 学陽書房 見開き・92項目で自治法の全体像がつかめる！</p> <p>『これから始める人のふるさと納税らくらくガイド』 叶 温 あさ出版 達人が教える年収特別產品取り寄せプラン</p> <p>『ぼくらのリノベーションまちづくり』 嶋田洋平 日経 BP 社 空き家だらけのまちを元気にする仕事</p> <p>『地域活性化を成功に導く5つの提言』 須田憲和 カナリア コミュニケーションズ</p>	

元気な日本をつくるためのヒントが満載！

『地方創生ビジネスの教科書』 増田寛也 文芸春秋  
「地方消滅」させない成功の極意を公開

『人口減少に立ち向かう市町村』 『季刊地域』編集部 農文  
協

人口減少に立ち向かうポイント

『コミュニティ革命—「地域プロデューサー」が日本を変える』  
高橋英與 彩流社

日本がこわれた後に、私たちはどう生きていくのか これからの地方創生は「地域プロデューサー」が担う！

『里山を創生する「デザイン的思考」』 岩佐十良 KADOKAWA  
事業計画書では語られない！デザインこそが「地方創生」の秘  
訣。

『AZUMINO 祝・安曇野市制施行十周年』 北條 豊 未来ゆた  
か株式会社

朝が好きになる街 安曇野市 四季彩る安曇野市

『安曇野雑記 ある映像作家の生活記』 中沢義直 プラルト  
写真文集 安曇野でスローライフを愉しむためのバイブル誕  
生！

『信州安曇野』 宮下一男 文芸社

安曇野堀金の歴史や伝承、民話、また発明家畠雲辰致や彫物師  
浅川豊八、立川豊八らを、豊富な資料によって紹介する。

『日本外交 現場からの証言』 孫崎 享 創元社

現代日本外交の本質

『白熱講義！集団的自衛権』 小林 節 ベスト新書

「グレーゾーン」「国際協力」「集団的自衛権関連」 無敵の憲

	<p>法学者が政府の[15事例]を斬る!!</p> <p>『農業維新』 嶋崎秀樹 竹書房      「アパート型農業」で変わる企業の農業参入と地域活性</p> <p>『科学者は戦争で何をしたか』 益川敏英 集英社新書      ノーベル賞科学者は警告する！ 安保法制、解釈改憲… 暴走する政治を痛烈に批判！</p>
まとめ（感想・市政に活かせること等）	政務活動のために購入した資料を活用し、安曇野市政に役立てたい。

備考 政務活動等実施状況は活動ごとに作成し、領収書その他支出を証する書類を最後にまとめて添付すること。